

青梅市文化財ニュース

第 3 7 0 号

平成 3 0 年 8 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859）

なおも健在『地蔵院の宝珠梅』

平成 21（2009）年に青梅市で初めて確認された梅輪紋ウイルスは、青梅を代表する梅の観光地吉野梅郷・梅の公園にも広がり、ほとんどの梅の木が伐採され、新種に植え替えて一から出直すという態勢となりました。

この梅郷に限らず、市内各地で個人的に植えられている梅の木の数も多く、対象地区と毎年設定している強化対策地区を含め、調査は今でも行われています。

このウイルス感染により、青梅市の天然記念物にも影響が出始めて来ました。

青梅市には現在、天然記念物が、国、都、市を合わせて 19 件有ります。その中で、梅の指定は『金剛寺の青梅』（都）と『地蔵院の宝珠梅』（市）の 2 件となっています。その内の、畑中二丁目の『地蔵院の宝珠梅』がこのウイルスに感染し、一部が伐採されました。

宝珠梅は、昭和 32（1957）年 11 月 3 日付で青梅市天然記念物に指定され、左右に分かれた株の根元は幹回り 4 m、樹齢 300 年とされており、皇国地誌・『畑中村誌』（明治十年編集）では、「臥龍梅」として項目立てをされ、次のように書かれています。

「本堂ノ庭ニアリ。囲六尺有餘、根モトヨリ三尺ホドニテ幹トナリ、左右シテ地ヲ離ル
コト五尺程、東西十間ニ至リシガ近頃伐シテ東西纔丈ニミタズトイヘドモ高サ
二丈有餘ニ繁茂シ、満開ハ毎年彼岸廿日前ナリ。五鶴堂ノ三観 臥龍梅、清泉、絲櫻。」
と書かれています。

この時の記録に基づく、太さは直径約 60 c m で、大きく広がった枝は約 3 m の幅に伐採されたが、高さ 6 m ほどの所で、生い茂り、お彼岸の 20 日前頃に満開となると記してあります。

このような歴史のある梅にも寿命はあり、現在は西側の古木は健在ですが、東側は枯れ、その痕跡を残しながらも次代へ向け、幼木が植えられて育っていました。

今回はこの幼木が感染し、伐採されました。

市内には命名されていた梅はこのほかに、岩割の梅（梅郷）、大聖院の青龍梅（梅郷）、正明院の月光の梅（二俣尾）、大聖院の親木の梅（梅郷）、愛宕神社付近の金老梅（柚木町）、白幡の梅（梅郷）、蓬萊梅（梅郷）、白龍梅（梅郷）、青梅マラソンの時季に開花してランナーをお迎えしていた、明白院のしだれ梅（日向和田）などが有りました。

これらの梅には、古木の特徴となる、^{よじ}捩れながら成長する過程を残していたものもあり、多くのいわれを持つ梅、歴史を語る梅は寿命や環境の変化、このたびのウイルスの感染などにより一部を残し、ほとんどが伐採されてしまいました。

変化の激しい環境の中で、数少ない梅の天然記念物『地藏院の^{ほうじゅばい}宝珠梅』は、残された木々により将来に向け、引き続き、梅の歴史ここにありと頑張っていく事となりました。

数百年をかけて成長した梅も、数年間で蔓延したウイルスにより伐採される事態となった今日、早くこのウイルス感染が沈静化することを願うところです。

(文責 鈴木晴也)

